

かほる

土塀、土蔵、唐箕、鬱蒼とした古木、カキモチ、大根干し、櫓とあか取り、旧家の駕籠。

ここに取り上げられているのは、近代化の波の間に間の大浦地域、ひいては田舎を象徴する、しかも滅びんとする残影であろうか。どれ一つをとってみても、郷愁を感じさせずにはおかないようである。

校下内に現存する土塀は、旧の地主の家のものである。各部落には数軒の地主がいて長をなしていた。大きな家屋や庭を囲む土塀。和服姿の佳人が大きな門から現れそうである。

そして、前時代の骨董的建築物になって久しいのが、土蔵である。往時は田舎のステータスシンボルであった。その中には家宝はもとより、今年収穫したお米や、いたずらが過ぎた子供のインスタント牢の役目も果たしたりと、いろいろな用を足した。

唐箕は、脱穀した米の中のごみ（すべといった）や未熟粒（みいしといった）を吹きとばしたり選別する機具である。つい二、三年前までは使用していたが、今では農家の納屋の片隈にひっそり置かれている。

かつてクリークが縦横に走ったこの水郷地帯では、農耕運搬具として必要棹をさしてクリークを行き来していたが、農耕の合間やその後の河北潟に出て釣りなどのレジャーの時には、櫓を使っていた。また、ちゃんとした舟小屋に舟を収めていた家もあったが、雨ざらしの舟も少くなく、舟の中に溜った雨水、即ちあかをとる道具あかとりも、舟に欠かせない道具であった。

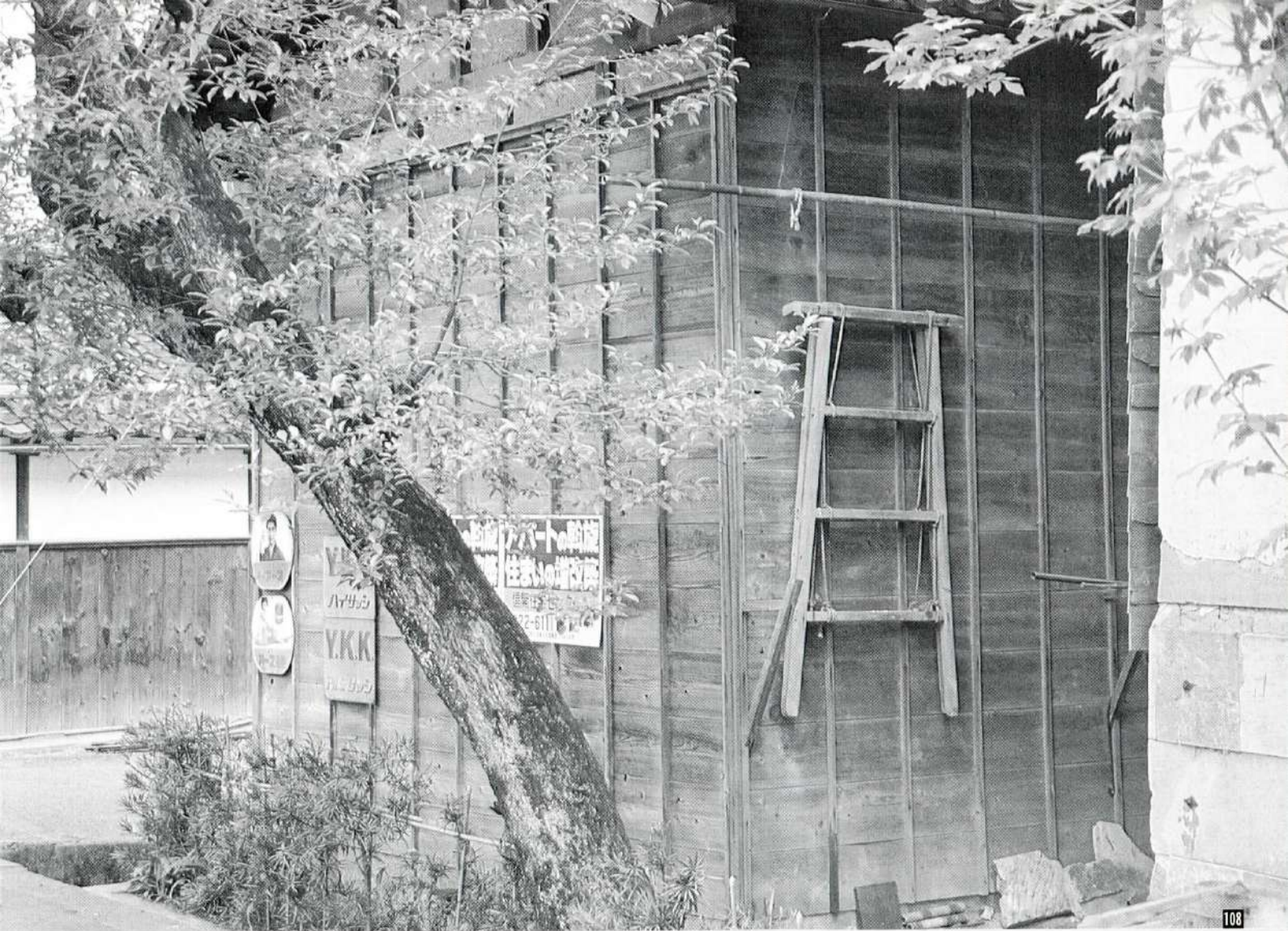
大根干し、かきもちなどは、今も健在の風物である。みぞれまじりの日が多くなる晩秋に大根引きをし、洗って縄でゆわえ、垣根や廂に吊す。動力のない当時は一家あげての大仕事の一つであった。この大根を使って、各家では長い冬に備えてどっさり沢庵を漬け、冬の間の食卓を飾り、野菜不足を補った。

かきもちは、一月末に一日たっぷりをかけ、一軒で一俵も二俵も搗いた。豆、七味、混布などをいれ、その家々の工夫が施されていた。三月の彼岸頃から食べ始め、半年も一年もの間、子供のおやつや農作業時の合間に供されたものだ。

時の流れとともに、移りかわるものが多い。そのなかで、守り伝えていかねばならないものも多くあることを、私達は忘れてはならない。

（大浦町・前川 雅）





- 108 東蚊爪町旧家 土蔵のある家も少ない
109 東蚊爪町旧家の土塀
110 大浦町たたづまい



109

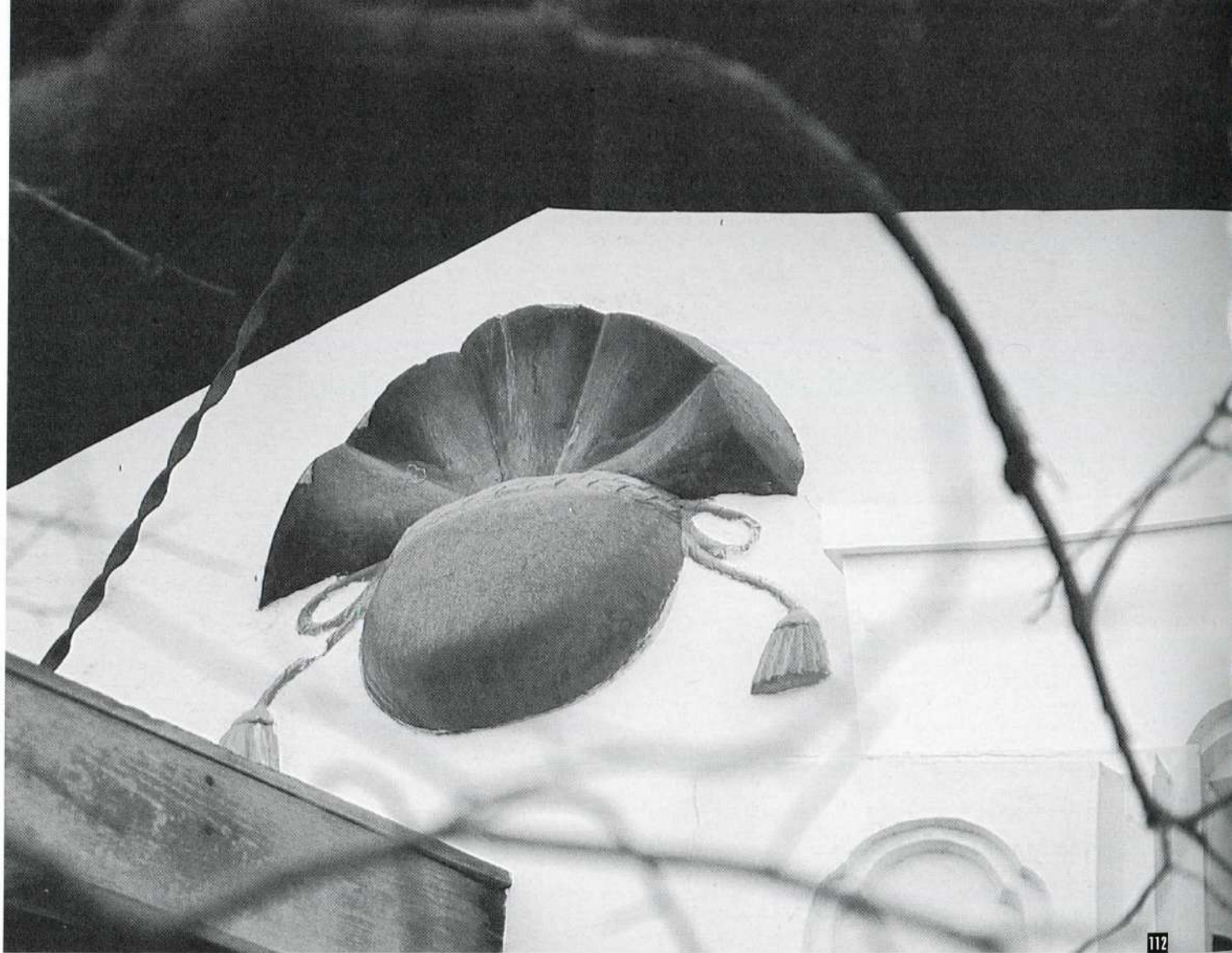


110



111 木越町旧家

112 旧家の象徴、土蔵に描かれた金ちゃく。こて絵



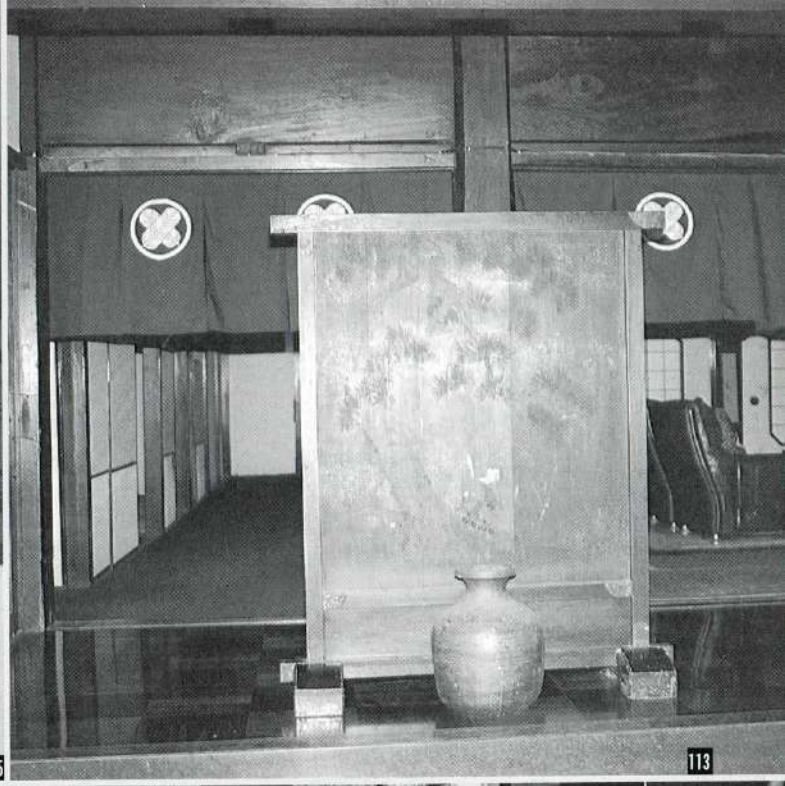
112

たたづまい

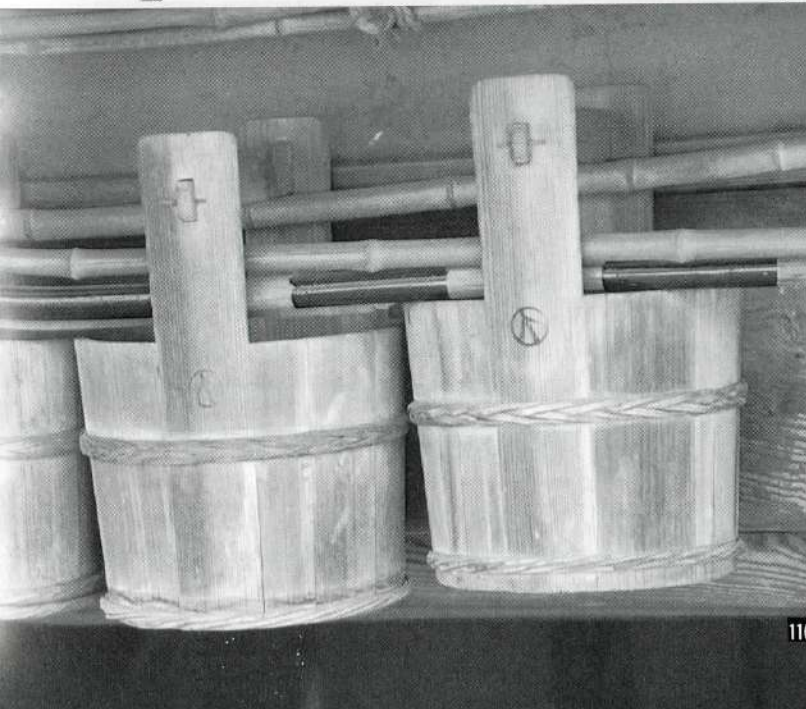
東蚊爪、大浦、木越を歩けば、打ち出の小槌や金ちゃく袋が描かれた土蔵が目につく。白壁も所々剝がれ落ちてはいるものの、大屋根や土間と共に往時の豪農が偲ばれる。今でも家と呼ぶのに『何々サ』『何々ド』の様・殿の屋号が生きている。



115



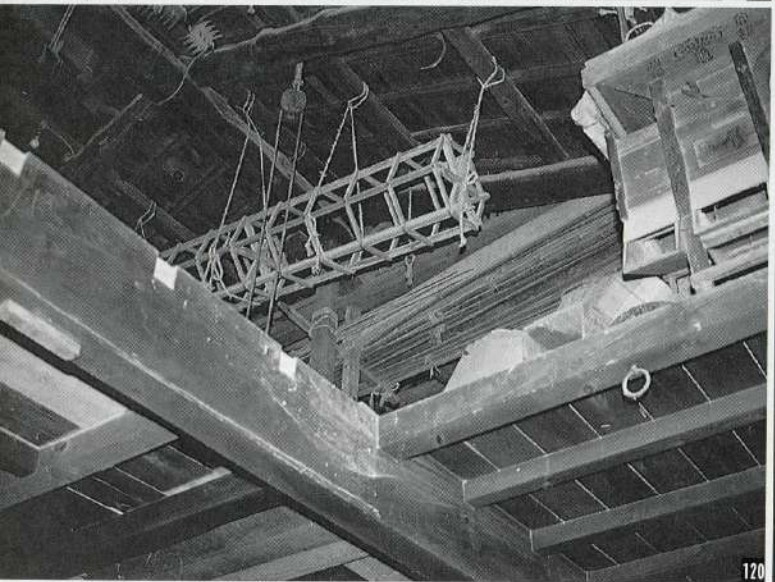
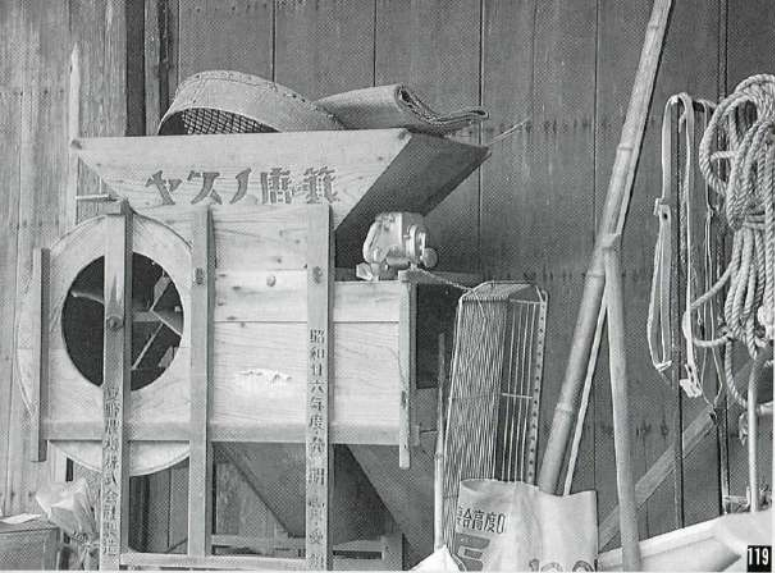
113



116



114

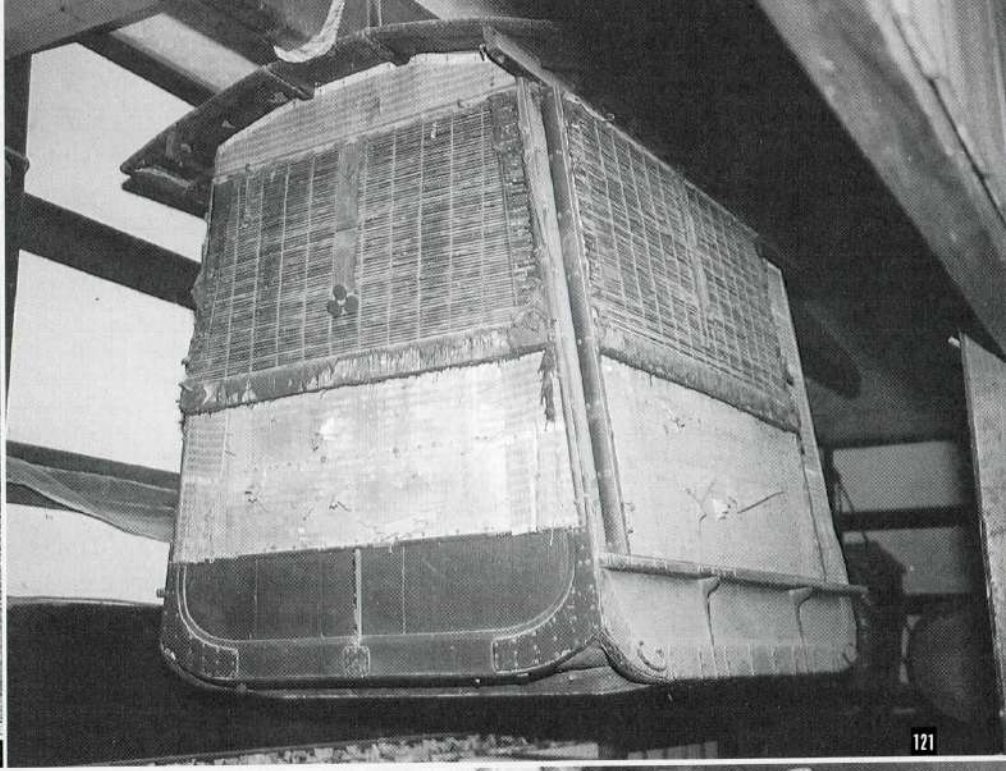


- 117 大浦町農家のたたづまい
 118 木越町農家のたたづまい
 119 大浦町農家の納屋におかれているとうみ
 120 農家のあま

- 113 東蚊爪町旧家 風格の玄関
 114 農作業を家するには、土間は格好の場であった。ふだんは板敷をおいて広々とした玄関の様をなしていた
 115 木越町旧家 ちょうちん入れ
 116 木越町旧家 防火用水



123

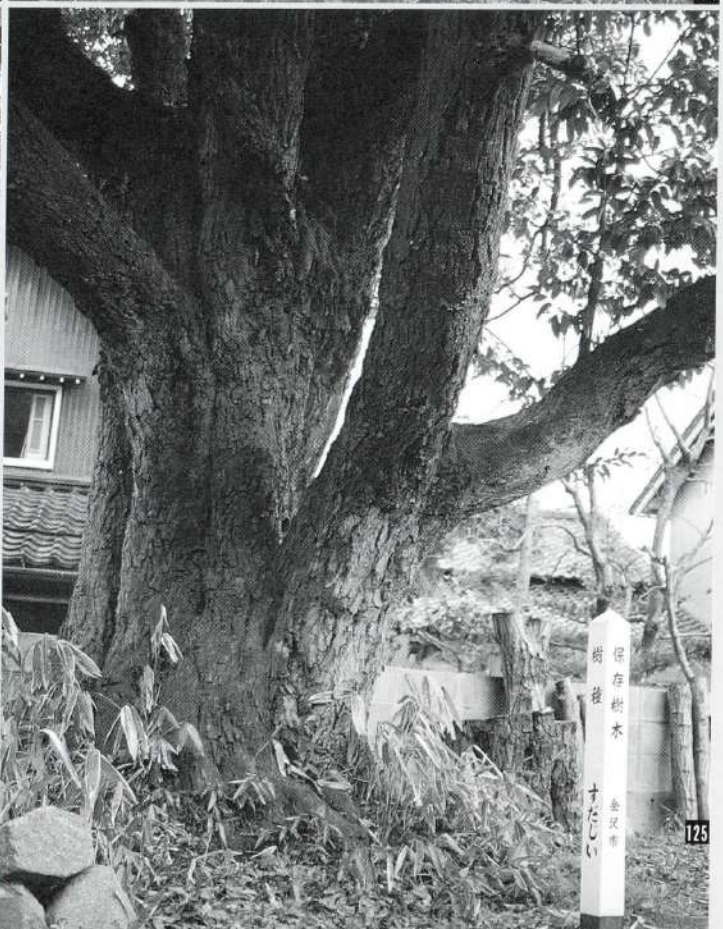


121



122

- 121 木越町福千寺に伝わる籠
122 川舟の櫓とあかとり
123 大浦町開拓の祖といわれる池田元助の石碑



- 124 蓮如伝説の五色八重梅 木越町福千寺に伝わる
 125 金沢市保存樹木 スダジイの大木。大浦町
 126 天狗が住んでいるという伝説の木。大浦町
 127 蓮如伝説の五色八重梅



128

飛行橋

太平洋戦争が風雲急を告げるなか、河北潟に面する東蚊爪町地内には、地の利を生かした水陸両用の愛国金沢飛行場が威容をはなっていた。

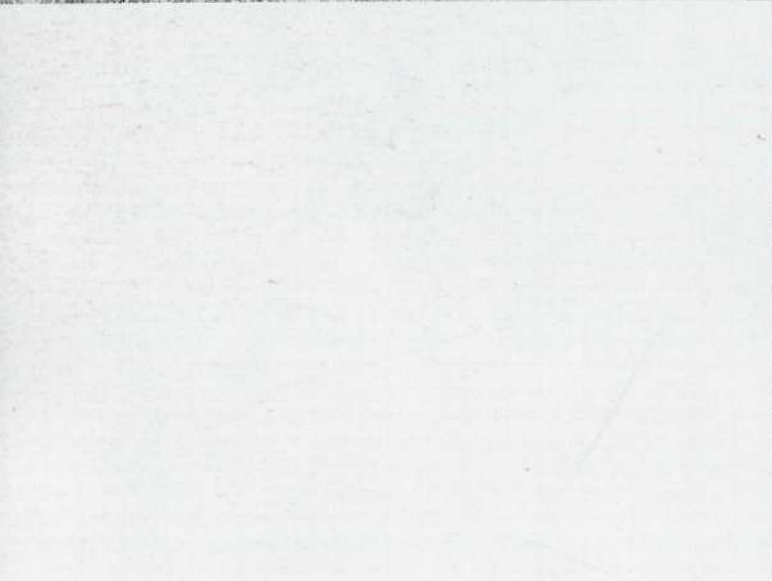
飛行場に連なる道路は飛行道路と呼ばれ、御宮川には飛行橋が造られた。敗戦の色が濃くなるにつれて、この飛行場も形を失い、今は当時の面影をとどめる唯一つの遺物となって歴史を無言で語りかけている。



131



129



130

- 128 往時の金沢飛行場の面影を唯一つ残す飛行橋。コンクリートの欄干にはプロペラが描かれている
- 129 堤越川の橋 昔は川の立体交差だったという
- 130 旧川北村をしめす道路元標。大浦町の神社境内に保存されている
- 131 廃校となった旧木越小学校。今はもう取り壊されてしまった



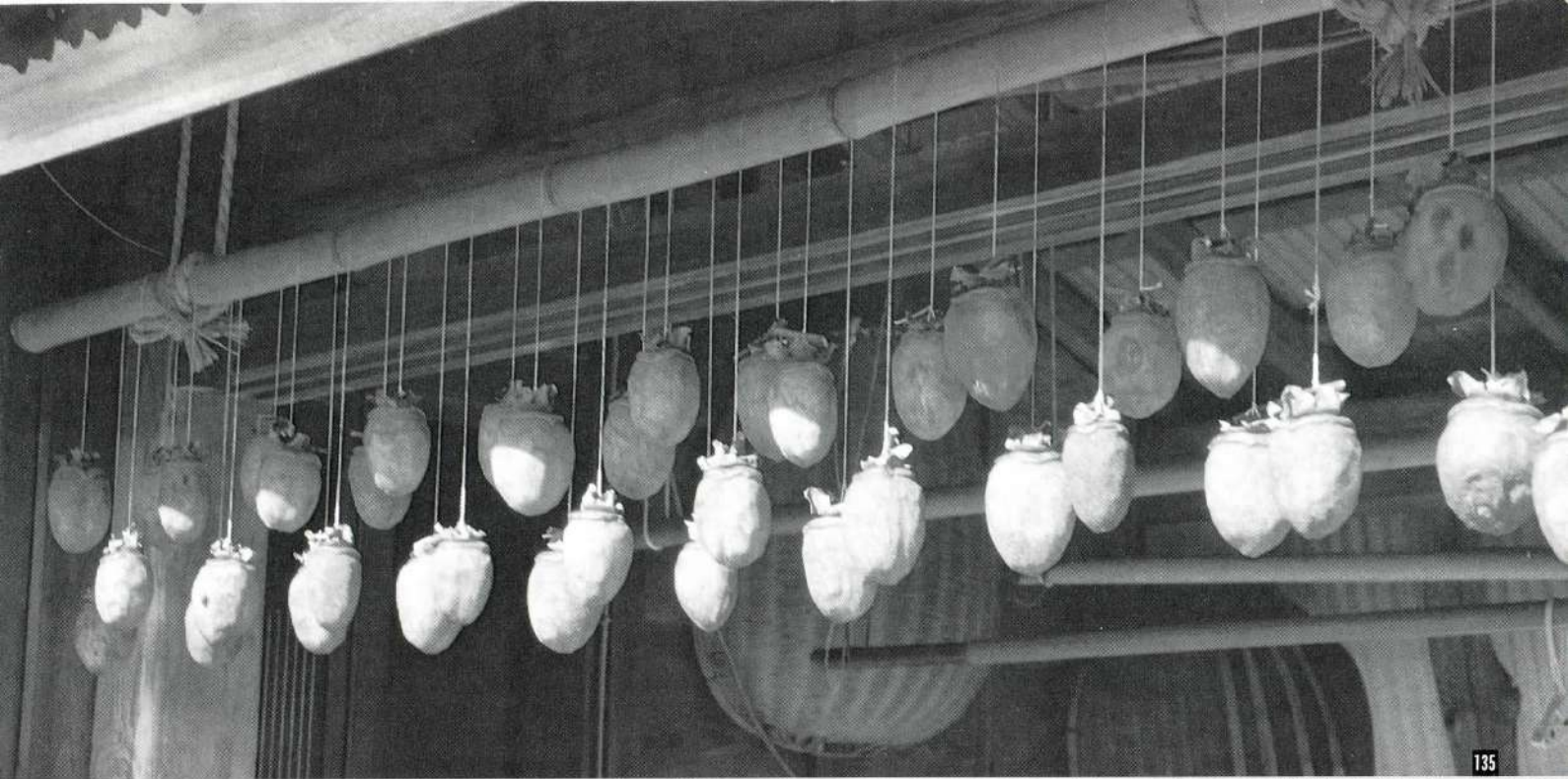
ハサ木

稲田をぬって流れる小川添いに、ハサ木と呼ばれるハンノキが等間隔で5～10本程植えられている。

広々と見渡す景色の中に、直線的に並ぶハサ木は田園風景の象徴となっている。今では、ハサ木に稲を干す姿も消え去ってしまった。



- 132 ハサ木を積んでおく『はさんだな』
133 わらを保存しておく『わらにお』も少なくなってきた
134 大浦校下に唯一か所現存する『肥え溜め』



135



136



137

- 135 干し柿
136 秋の日差しに干される大根
137 今も子供たちに人気のあるカキモチ

軒さき

秋も終りに近づくと農家の軒さきが急ににぎやかになってくる。一個一個皮をむかれた柿がすだれのようにつるされ、陽光を浴びて干されている。

柿が終れば、次ぎは大根干しに変わっていく。土にまみれた農機具も傍らにそのまま。なんとどのどかな風景だろう。